高い技術力が光る左官仕上げで要望をカタチにした健康住宅を築き上げたい

志垣 太郎
俳優

対談
interview

宮左官 株式会社
兵庫県三田市下田中 559-4

宮本 昌宏
代表取締役

健康志向の高まりと共に、住宅建築においても自然素材を活かした昔ながらの施工法の良さが見直されている現代。漆喰などの自然素材、洗い出しといった仕上げ方法を用いた施工を手掛けるのが『宮左官』だ。健康住宅の建築において、その技術力は信頼を得ている。本日は、俳優の志垣太郎氏が宮本社長のもとを訪問し、お話を伺った。

――早速ですが、宮本社長の歩みから伺います。左官の道に進まれたきっかけは？

父が左官屋を営んでおり、中学校卒業後すぐに父のもとで修業をはじめました。家業を継ごうという意志があったわけではなく、勉強が苦手だったので左官の仕事に入るしかないと思ったんです（笑）。男ばかりの三兄弟ですが、皆、左官職人になりましたし、家庭環境の影響は大きかったですね。父は一時、大阪でビルなど大規模な仕事にも携わっていたようですが、40歳を前に兵庫県に帰郷して、戸建住宅を中心に手掛けるようになりました。そこにやがて、我々兄弟が加わり、4人で現場に立っていたんですよ。

――息子たちが同じ道に進み、一緒に現場に立つ。お父様は、さぞ嬉しかったことと思います。

父は昔ながらの職人で、勝手に怖い存在だと思いこんでいましたが、一緒に働いてみると、親方と呼べなどと偉ぶる素振りもなく（笑）、しっかり技術を叩き込んでくれました。

――そうして、お父様のもとを巣立たれた、と。独立には何かきっかけが？

付き合いのあった大工さんの紹介で知りあった工務店の二代目の方と仕事の方針について意見が合致しまして。そちらの仕事を手掛けたくて、弟を連れて独立しました。

――その方針とは？

自然素材にこだわった健康住宅を広めていくという方針です。左官の仕事で言えば、家の中の壁を漆喰塗りにする。漆喰には、室内の湿度を調整する調湿作用や消臭効果があり、快適な空間を維持できますし、防火性にも優れており、安全性の高い素材です。漆喰はクロスの3～4倍もの時間とコストが掛かるのですが、それでも漆喰にこだわる価値はあると思いますね。外壁も、サイディングやペンキを使わず、コテを使って仕上げた塗り壁にし、玄関もタイルではなく昔ながらの左官の技術である洗い出しという仕上げ法を採用しています。

――左官の仕事は減少傾向にあるのかと思っていましたが、健康住宅をつくる上で左官仕上げが有効とあれば、今後、需要が高まるかもしれませんね。

そうであれば嬉しいですね。家1軒を建てるのに、ここまで左官仕上げにこだわる会社はなかなかありません。だから私は、そちらの会社の方針に共感を覚え、一緒に仕事をしたいと考えました。この出会いがなかったら、独立はしていなかったかもしれません。お陰様で、年々、少しずつですが右肩上がりで業績が伸びており、昨年7月には法人化を遂げることもできました。

――健康への関心が高い今、健康住宅のニーズも高まりそうですね。御社の活躍の場もますます増えるでしょう。今後については、どのようにお考えですか。

職人である限り、綺麗に仕上げることは絶対です。私は現場に立ったら、ご要望に精一杯応えるために自分だからできることは何だろうかと考えます。私共に頼んで正解だったとご満足いただけるような質の高い仕事を納めるための努力を続ける――これに尽きますね。また、今は弟と二人ですが、今後は若い世代を入れて育てていきたいんです。学校の勉強が苦手だったり、家庭環境に恵まれなかったり、いろんな事情があって自分に劣等感を感じている子でも、仕事にやり甲斐を持てたら、それが自信になる。「俺にだってできたんだから」と教えてあげたいですね。

――社長だから伝えられることがきっとあります。本日は、ありがとうございました。

after the interview

「10代から職人として歩んでおられる宮本社長。ご経験が豊富な分だけ、お客様のニーズを察知したり、想いを汲み取ったりするのがお上手なのだと思います。職人として、高い志をお持ちである社長のますますのご活躍を期待していますよ！」

志垣 太郎
（俳優）

© 2019 USP-Management Co., Ltd.